

法華寺だより



釈尊成道会・唱題行

お釈迦様は他の修行僧を圧倒する壮絶な苦行に堪えたにもかかわらず、悟りを得ることは出来なかつた。このため、沐浴をして身を清め木陰で静かに瞑想を始めた。次々と現れる煩惱と誘惑を見極め、深い思索の末、ついに苦しみの正体を解明する。二十一日間の瞑想により仏道の根本を成就されたのが十二月八日とされています。私たちが、仏道修行に励む決

意を新にする法要が「釈尊成道会」であり「唱題行」なのです。苦しみや悩みさえ、み仏の思召しであると受け止めなさい。全ての人は仏になれる。仏の命は、永遠であると法華経は説きます。法華経は、末法の世を照らす法だが、その弘通には困難が伴うとも説かれています。

我ら凡夫も共に励みましよう
南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経

〇 曼荼羅 〇

「まんだら」 仏の世界を象徴的に図示した仏菩薩の集合図のことをいう。

くらしの中の 仏教語

古来インドの修法では、魔衆の侵入を防ぐために円を描き、その場所をマンダラと言った。古くは、「壇」・「道場」と訳された。

マンダラは密教に特有のように思われるかもしれないが、華厳経ではその世界観を示す重要な

語句として用いられる。日蓮宗のご本尊が大曼荼羅（文字曼荼羅）であることは周知のこと。

日蓮聖人は、真言密教のそれは十界互具一念三千の義が無く、本因本果が欠如しているので、輪円具足していかないとおっしゃっている【とても難しい】

真実究竟の曼荼羅は、日蓮宗の大曼荼羅本尊なのです。

【仏教語散歩】

(さだまる新書)参照

いざ挑戦 日蓮検定

【二級 その⑥】
日蓮の直弟子「六老僧」で、

比叡山延暦寺遊学時の学友でもあり弁阿闍梨（大成阿闍梨）

- 1…日頂
- 2…日持
- 3…日向
- 4…日昭

第十八回東部和讃交歓会

十一月二十九・三十日の両日十勝川温泉ホテル大平原にて実施されました。道東各地の寺院の代表が日頃の練習の成果を発表し合いました。当山からも婦人会の方を中心に十四名が参加しました。宗祖降誕八百年の慶讃を記念する「統一新和讃」の講習が有るなど意義深い集いとなりました。



第18回 和讃交歓の集い

ご案内

十二月 八日 釈尊成道会

- 一月 元旦 新年祈禱会
- 四日 新春棚経
- 十五日 毘沙門会、初お講

- 1…日頂 「伊予阿闍梨」とも言われ、下総真間で布教
- 2…日持 「蓮華阿闍梨」とも言われ、海外布教を図る
- 3…日向 「民部阿闍梨」とも言われ、聖人と佐渡で生活天台僧であったが、聖人の最初の弟子となる



心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩みや心配事の絶えないもの
……ご来所やお電話を……
TEL 二三三四〇三三三

今月の聖語

良の廊にて

必ず待ち奉るべく候

「霊山浄土への導き」死を迎える時「死後はどうなるのか」と不安になるかも。その時「霊山浄土へ来たら、その入り口の渡り口で、日蓮をお呼びなされ。必ずそこでお待ちしていますよ」

- 十一月 覚書
十一月一日 広尾広教寺お会式
十一月三日 行学会
十一月八日 宗祖小松原法難会
十一月十八日 大樹頭法寺お会式
十一月二十一日 合同忘年会
十一月二十七日 帯刑教誨
十一月二十九日 東部和讃交歓の集い
ホテル大平原にて

休み

「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）
第五章 日蓮宗の勤行

- 2 おつとめの内容 (一)
(1) 勸請（かんじょう） その二
・お出でいただく諸尊は

仏部 釈尊及び十方分身三世の諸仏
菩薩部 人々の苦悩を除き、仏道に導く修行をされ
弟子部 知恵第一の舍利弗尊者、神通力が一番の目
諸天部 連尊者等、釈尊の優れた直弟子
仏道を歩む人々を守護する誓いを立てた「四

「奉仕」感謝

☆ 布薩会と婦人会 様 法会の諸準備、寺庭等の環境整備等々、誠に感謝

☆

法華経名句 私撰

（方便品第二）②

諸仏世尊はただ一大事の因縁を以てのゆえに世に出現したもう、

松本慈恵師の解説より

多くの仏・世尊はただひとつの特別な大事のいわれがあり、そのいわれによつて、出現されたのである。欲令衆の最初は、この方便品から抜粋したもの。衆生に諸法実相を理解するための智慧（仏知見）を開き、示し、悟らせ、仏知見の道に入らせることが出現した目的という



天王「鬼子母神」等の諸天善神達

法華経流通の先師部 インド・中国・日本

導師部 日本伝教大師、日朗上人
法華経によって世界の人々を導く道を示された日蓮聖人、

これらの方々にお出でいただくのが勸請私達が勸請文をお唱えする時はみ仏と共に生きている諸天善神が守って下さっているでも、一期一会でもあるのですだから毎日・毎回お呼びするので

編集後記

◆月めぐりカレンダーも最後のページ◆この一年を振り返る◆色々あったけれど大成も大失敗も無い◆それで良いのかもしれない◆喜寿を祝ってくれた年◆せめて傘寿までは何とか元気で頑張りたいもの◆その為には、何をどのようにながけ実行しなければ◆◆それにしても医療費の領収書は増えました◆ ◆山崎記◆

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
※「日蓮検定」
※「日蓮宗信行読本」
※「法華経名句辞典」松本慈恵
※日蓮宗新聞